

事業者名 株式会社呉バス
営業所名 本社

(様式例)

特別指導記録 <準初任運転者>

旅客自動車運送事業運輸規則第38条第2項による

運 転 者 名	選任年月日	指 導 時 間		ドライブレコーダー記録のファイル名
MM	7年 6月 5日	指導教育	添乗指導	専用SDカード
		17時間	43時間	

④、⑥について、初任運転者と同等の時間以上を実施すること。	実施場所
⑦の項目(実技指導)について、20時間以上実施すること。	

準初任運転者への特別な指導内容		実 施 内 容	チェック	実施日・時間	指導者
④	危険の予測及び回避	・運転する自動車と同一の車種区分の自動車を用いた制動装置の急な操作方法の指導	☒	7年 5月 20日 2時間 00分	
⑥	ドライブレコーダーの記録を利用した運転特性の把握と是正	・⑦のドライブレコーダーの記録による運転者自身の運転特性の把握、必要に応じて是正のための必要な指導	☒	7年 5月 24日 2時間 00分	
⑦	安全運転の実技	・実際に運行する経路(高速道路、坂道、隘路、市街地等)において、運転者が実際に運転する自動車と同一の車種区分の自動車を用いて添乗により指導 ・雪道又は夜間の運行を行う運転者にあつては、必要に応じてそれらの運行経路又は時間帯においても指導を行うこと	☒ ☒	別紙「安全運転の実技指導」に記載すること	
1	使用したテキスト、資料の写を添付した本記録票を3年間保存すること。また、安全運転の実技におけるドライブレコーダーの記録(最低20時間分)及び習得の程度の確認をドライブレコーダーの記録により行った場合その記録並びに安全運転の実技における運行記録計で記録した瞬間速度、運行距離及び運行時間の記録を3年間保存すること。				
2	具体的な内容を乗務員等台帳に記載するか、又は乗務員等台帳に実施年月日を記載した上でこの書面を台帳に添付すること。				
3	指導実施後、2週間以内にドライブレコーダーの記録(15分程度)又は添乗等の方法により習得度の程度を確認し、必要に応じて指導を行うこと。なお、ドライブレコーダーの記録で確認する場合は、高速道路、坂道、隘路、市街地、駐車場における記録を確認するよう可能な限り努めること。				

(様式例)

◎安全運転の実技指導(添乗で合計20時間以上実施する事)

実技指導の内容及び実施場所	判定	実施日・時間	添乗者
・一般道・夜間の走行(出発前の危険箇所の指導、自転車・歩行者の動き、停車中の安全確認、隘路の走行、右左折時の注意点、夜間走行の注意点等) 実施場所: JR矢野駅から車庫までの夜間走行	☒	7年 6月 2日 0時間 30分	M (乗務歴:5年)
・高速道路の走行(ETCレーンの通過、本線への合流、排気ブレーキ等を使用した下り坂での走行方法、速度に応じた車間距離の確保、サービスエリアでの注意点等) 実施場所: 山陽道 高屋～神戸	☒	7年 5月 20日 5時間00分 7年5月30日 4時間50分	H (乗務歴:12年)
・上り坂の走行(勾配が変わらない場合の一定のギヤの保持、見通しの悪いカーブでの注意点、道幅が狭いカーブでの注意点等) 実施場所: 三次(山間部の山道)	☒	7年 5月 28日 4時間 03分	F (乗務歴:1.5年)
・下り坂の走行(排気ブレーキ・リターダーの活用、実車と空車の違い、フットブレーキ使用時の注意点、シフトダウンの注意点、カーブの走行方法、ギヤ選択時の注意点) 実施場所: 三次(山間部の山道)	☒	7年 5月 28日 4時間 03分	F (乗務歴:1.5年)
・乗客へのアナウンス(シートベルトの着用、非常口の位置と使用方法、非常ブレーキの位置と使用方法等) 実施場所: 路上教育 駐車場スペース内	☒	7年 6月 1日 3時間 00分	K (乗務歴:9年)
・バス車両の特性(車両の死角、発車時のアンダーミラーによる前方確認、バックカメラの特性の理解、内輪差とオーバーハング、速度に合ったギヤの選択) 実施場所: 車庫	☒	7年 6月 2日 1時間 30分	M (乗務歴:5年)
	☐	年 月 日 時間 分	
所見、総合判定: 良し 出庫から帰庫するまで安全かつ適切に走行できる操作レベルにある。 適切な操作を習慣化するための初期教育は一通り完了し 引き続き、定期的に確認の作業と補講をおこなう。			

◎安全運転の実技指導例(国土交通省の「貸切バスにおける実技指導の具体例の解説動画」による)

指導内容	指導のポイント
一般道・夜間の走行	・出発前に事故の危険性が高い箇所を把握し、適切な運転操作を指導する。 ・自転車・歩行者等の動きに注意する。 ・停車中も適宜後方の安全を確認する。 ・隘路を走行する際は、歩行者、自転車、電柱、道路標識、屋根、軒等に注意する。 ・左折時には、内輪差による巻き込み及びリヤオーバーハングに注意する。 ・右折時には、対向の二輪車や横断歩道上の自転車・歩行者に注意する。 ・夜間走行は日中と見え方が異なるので、自転車・歩行者・特に二輪車には注意する。
高速道路の走行	・ETCレーン通過時には、前後左右の車両の動きに注意する。 ・ETCレーンでは、時速20km以下の速度で通過する。 ・合流地点では、譲り合いを心がける。 ・下り坂は、速度超過に繋がりやすいため、排気ブレーキ等を適切に使用し、一定の速度を保って走行する。 ・速度に応じた適切な車間距離を保って走行する。 ・サービスエリア内では、特に左からの車両や歩行者に注意する。
上り坂の走行	・勾配が変わらない場合、一定のギヤを保持して走行し、下り坂で同じギヤを使用するためギヤを覚えておく。 ・見通しの悪いカーブでは、対向車等の危険予測を行い、注意して走行する。 ・道幅が狭く、やむを得ずセンターラインを超える場合は、速度を控え対向車の妨げとならないよう注意する。
下り坂の走行	・排気ブレーキ及びリターダーを使用し、フットブレーキを踏み過ぎないように注意する。 ・乗客がいる場合は、その重量が加わることでブレーキが効きづらくなるため注意する。 ・過回転に注意し、さらに加速するような場合にはフットブレーキを使用する。 ・フットブレーキを使用する際には、ブレーキの加熱に注意する。 ・エンジンの回転数が合っていないとギヤが入らないことがあるため注意する。 ・カーブでは手前で減速し、なるべく外側を走行する。 ・上りと同じギヤもしくは一段低いギヤを使用し、上りよりも高いギヤは使用しない。
乗客へのアナウンス	・シートベルトの着用、非常口の位置と使用方法 ・非常ブレーキの位置と使用方法
バス車両の特性	・車両の死角を理解する。 ・発車時は、アンダーミラーにより、バス前方の安全を確認する。 ・バックアイカメラの特性を理解する。 ・運転する車両の内輪差とオーバーハングを把握する。 ・速度にあったギヤを選択する。